

「桑野幸子の 闘病のつれづれ日記 5」

待ちに待った『桑野幸子の 闘病のつれづれ日記 5』を頂きました。いつも桑野さんには「明日も良い日でありますように」と励ましのお言葉を頂くと共に、時間をかけて書かれたであろうメッセージが添えられています。今回は彼女のここ 3 年余りの間の日記をご紹介します。

桑野さんは、16年前から脳幹部出血による“ロックドイン症候群(閉じ込め症候群)”のため、不自由な生活の中リハビリを続けておられます。お母様は「人生の悲しみや苦しみは幸せの種である」ということを常に言っておられ、この言葉に沿って桑野さんはいろんなことに挑戦されておられます。筋拘縮緩和のためのボトックス注射や吊り下げ歩行器を使った歩行練習をはじめ、小さなことでは編み物や折り紙など、桑野さんにとっては大変な作業だと思います。

彼女には、現在のことから遠い未来に向けてさまざまな関心があるようです。例えば自然の美しさと恐ろしさ、宇宙の不思議さと感動(アメイジング・グレイスとでも言いましょうか)、iPS 細胞への期待や未だ解決されていない西アフリカのエボラ熱についてなど。今回は東日本大震災以来の出来事、嚥下・排泄・移動などの日常生活やリハビリ風景、自分の努力と周りの方々の支えなども含め、感謝と思いやりを込めて淡々としかも丁寧に描写されています。

現在私自身リハビリをしていて、今までとはまた違った目線で桑野さんの生き方を見ることができ、ポエムとも言えるような美しい日記を皆様には是非読んでいただきたいと思います。

皆様にとって、明日も良い日でありますように。

平成 27 年 4 月 30 日

はまゆう会会長 市丸 喜一郎

(書き起こし・校正：椎葉)

『桑野幸子の 闘病のつれづれ日記 5』

(相生リハビリ室、新王子病院 4 階ロビー 私の本棚)